

---

# 紅

逢坂 智哉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紅

### 【Nコード】

N9408N

### 【作者名】

逢坂 智哉

### 【あらすじ】

のほほんとしたところから始まります  
一応ファンタジーものです

初めての作品なのでいろいろ下手なところはご容赦下さい。  
シリアスな感じにもしていきたいです

・ 1 ・  
**(前書き)**

※作者はド素人です！頑張ります。

「おいユーリ、いつまで寝てんだよ」

肩まで伸ばした真っ赤な髪の方がベッドに寝っころがりながら眠そうに答える。

「あと1、2日ぐらいはゆっくりしようよー」

「……、そろそろ金も尽きるんだけど？」

「えっ？」

驚いてベッドの前の椅子に座っている男を見る。

黒髪に黒い瞳、恐ろしいくらいに顔の整った男が背筋が凍る様な目つきでこちらを見ている。

（うおっ、怖っ…）

「落ち着け、わかった、働くから」

「じゃあ早く行ってこい」

「…ええっ！？一人で？リオンは？！」 黒髪の男、リオンⅡフリ

ルクスが目つきを更にきつくする

「お前が一日五食、しかも馬鹿みたいに食うから金欠なんだろうが。早く行け」

ユーリは冷や汗が流れるのを感じながらベッドから降りた

「…行ってきます」

宿屋から出たユーリは溜息をつきとりあえず、と『ギルド』に向かう。

――ギルド

この世界のほとんどの街や村に存在し、その地域の一般の民や商人、研究者など様々な人から依頼を受けて『ハンター』に紹介する仲介役で、様々な国のトップが集まる『世界連合』の監督下にある組織である。

凶悪な魔物の退治から店の手伝いまで危険度も報酬もピンキリで、危険度が高いほうから『SSS、SS、S、A、B、C』となっており、自分のランク以上の依頼は受けられない

ユーリのランクはS、リオンのランクはAで、危険度の高い依頼ばかりのランクである。

（とりあえずBランクの依頼でいいかなー）

Aランク以上の依頼になるとB以下の依頼とは危険度がまるで違ってくる

まあ報酬も段違いではあるが。

しばらくするとギルドが見えてきた。

中に入りBランク掲示板に貼ってある依頼を見る

「うーん：普通に魔物退治でいっか。」

紙をとり受付に向かい、職員に渡す。

「おはようございます、こちらの依頼でよろしいですか？」

「うん、宜しく」

「ではライセンスの提示をお願いします」　はいよ、とライセンスを渡す

「ありがとうございます、依頼内容ですが街を出て西、森の中の湖を根城にしているようです。報酬は銀貨30枚、魔物の体の一部との交換になります。」

「了解」

頭を下げる職員に見送られ、ギルドを後にする。

しかし西の森か、少し遠いな。

（腹減りそー）

何か食べて行こうかと思うがリオンに何をされるかわからないのでやめておく。

「仕方ない、さっさと終わらすか」

顔をしかめて腹を摩りながら西の森へと向かった。

・ 1 ・  
**(後書き)**

キャラクター紹介をしたいと思います。

ユーリルヴァリエント

髪形 赤、セミロング

身長 175

体重 61

両刃の剣を背負っている

食いしん坊

楽観的 リオン程ではないが、整った顔立ちをしている。

一応主人公です

次回はリオン紹介します！

「 2 」  
**(前書き)**

小説ってむずかしい…



ユーリが森の中を歩いていると、湖が見えてきた。

依頼の対象が根城にしているとところだ、周りを見渡すが今はないようだ。食い物でも探しにいったのだろう。

（チッ、俺だって腹減ったっつの、見つけたら食ってやろ……っ！）

背後に気配を感じ、咄嗟に横に飛ぶ、遅れて魔物の腕がユーリが居た場所に奮われる。

「おー、危ねえ油断大敵だなあ」

魔物と向き合い、背中から剣を抜く。

緑の鱗に覆われ、鋭い牙と爪、1mほどの尻尾があり二本足で立っている。

（竜人かあ、複数ならAランクになってもおかしくないね）

魔物が唸り声をあげ、ユーリに襲い掛かる。攻撃をわけもなくかわし、魔物の首に剣を振るう。

鈍い音と共に首が落ちる、そのまま血を振り払い、鞘におさめた。

「楽勝楽勝」

首を持って街に入るわけにもいかなないので、袋に包む。これでギルドに行けば終わり、やっと飯が食える。

ユーリは嬉しそうに袋を持ち、ギルドに向かった。

——  
リオンは椅子に座り本を読んでいた。ふと、外が暗くなってきたことに気付き、明かりをつける。

（もう夜か、そろそろだな）

再び本を読みはじめて数分、廊下から駆ける音が聞こえた。帰ってきたか。

本を閉じると同時に勢いよくドアが開く。

「リオン！！飯食いに」

「黙れうるさい。わかってる」

「ぐっ…じゃあ早く行こう！腹減って死ぬ！」

「可哀相に、じゃあそこにくたばるといい」

「い、いくらなんでも酷いぞ?!」

全く、煩い男だ。三度の飯より飯か。  
リオンが呆れながら立ち上がる。

「行くぞ、何食うんだ?」

「…肉!」

(毎回肉じゃねえかよ…)

まあいいか、静かになるし。肉なら宿の食堂にもあるだろ。

二時間程たって、ユーリ達は部屋に戻ってきた。

「食った食った」

(…食い過ぎだよ。なんで一食で銀貨5枚も払わなきゃいけない

だ

背後の殺気を感じたのか、ユーリは急いでベッドに飛び込む。

「お休みなさい」

溜息をつき、リオンもベッドに入る。アイツの胃袋を切り取らな  
きや駄目だな、などと考えながら目を閉じた。

ユーリは原因不明の寒気を感じ、布団にくるまっていた。

「 2 」  
**（後書き）**

続けてキャラクター紹介です

リオンⅡフリークス

身長176

体重58

黒髪 ミディアム

超絶美形 腰に刀身の黒い日本刀の様な剣をさしている。

毒舌 基本的に無表情

です。ヒロインとかどうしよう…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9408n/>

---

紅

2010年10月10日08時02分発行